

## 提 言

## 日本保健衛生教育学会の発足

金田 嘉清<sup>1\*</sup><sup>1</sup>藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

\*連絡著者: 金田嘉清, yokanada@fujita-hu.ac.jp, 藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科, 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

COI: 著者は日本保健衛生教育学会の理事である。

引用: 金田嘉清. 日本保健衛生教育学会の発足. 保健衛生教育学会誌 1, 26001, 2026.

Position Paper

**The establishment of the Japan Society for Health Professional Education**KANADA Yoshikiyo<sup>1\*</sup><sup>1</sup>Faculty of Rehabilitation, School of Health Sciences, Fujita Health University

\*Correspondence: KANADA Yoshikiyo, yokanada@fujita-hu.ac.jp, Faculty of Rehabilitation, School of Health Sciences, Fujita Health University, 1-98 Dengakugakubo, Kutsukake-cho, Toyoake, Aichi 470-1192, Japan

COI: The author is a director of the Japan Society for Health Professional Education.

Citation: Kanada Y. The establishment of the Japan Society for Health Professional Education. Journal of Health Professional Education 1, 26001, 2026.

21世紀を迎えて早や25年を経過しています。この間、人類は今までに想像した事の無い文明の発展を享受しています。特に人工知能（AI）、情報技術（IT）、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、これら三つの発達は我々の想像を超えたスピードで世界を変えています。特にAIの発達は、人の能力を超えるのが2035年と言われた2023年までの予想が2024年2月頃には2027年と変わり、その年の10月には2025年度中に人を越えたAIが現れると言われています。この発達は地球上に想像出来なかった社会を創造する事でしょう。

AIの発達は、医学のあり方も大きく変えつつあります。これまで医療職が経験や知識に基づいて行ってきた研究、治療、診断の多くにAIが関わるようになり、医学はより正確で効率的、そして個別化されたものへ進化すると考えられます。すでに診断の分野で、X線やCT、MRIの画像解析に高い精度で結果を示しています。人が見落としがちな小さな病変や希少な症例も検出できるため、診断の質はさらに向上します。治療の面では、遺伝子情報や生活習慣データをAIが解析し、患者一人ひとりに合わせた治療方針を提示する個別化医療が進展します。これにより、副作用の少ない最適な薬の選択や、生活習慣改善の具体的な提案

が可能になります。さらに予防医学の領域でも、AIは重要な役割を担います。ウェアラブル端末などで日常的に得られる健康データを解析し、病気の兆候を早期に察知する事で、治療から予防へと医学の重点が移行していくと考えられます。一方で課題もあります。AIの診断や治療提案に誤りがあった場合の責任の所在、膨大な医療データを扱う上での個人情報保護、そして人間らしい共感や倫理的判断をどう位置付けるかという問題です。これらを乗り越えることが、今後の医学発展の鍵となります。総じてAIの発展によって医学は大きく進歩しますが、その中心には常に『人の生命と健康を守る』という目的があり、最終的な判断や患者に寄り添う姿勢は人間の医療者が担い続けねばなりません。

人と医学の関係は、古代では祈りや呪術から始まり、次第に経験や観察を通じて病気と向き合う学問として発展しました。医学は『常に人を救いたい』という願いから生まれてきたのです。そのため、単に病気を治す技術ではなく、『患者という人間全体』を対象とします。身体だけでなく、心や生活、社会とのつながりも含めて支えるのが医学の本質です。AIや科学技術の発展により、診断や治療はますます正確になります。しかし、『人に寄り添うこと』、『苦しみを理解

すること』は機械には出来ず、医師を中心とした医療職の役割は今後も不可欠です。AIは医学を大きく変える力を持ち、診断、治療、予防、研究の全てで役に立ちます。しかし、それはあくまでも『人を助ける道具』であり、最終的な判断や人間らしいケアは人間の医療者にしか出来ません。AIと人が協力することで、未来の医学はより正確で優しくなると考えられます。AIと人と医学は切り離せない関係にあります。医学は『人のために存在する学問』であり、その進歩は人間の想いや倫理に支えられています。これからの医学はAIの発展により大きく進歩しますが、その中心には『人の生命と健康を守る』という目的があり、最終的な判断や患者に寄り添う姿勢は人間の医療者が担い続ける必要があります。

このような医学の未来を見据え、今ここに我々は『日本保健衛生教育学会』を創設します。保健衛生とは、「健康を保ち、生命を守る」という意味合いを持ち、病気の予防や健康増進、そして衛生状態の維持を目的とした、個人と社会全体の幅広い活動を指します。個人の健康だけでなく、社会全体の公衆衛生にも深く関わっています。国や地域のレベルで、国民の健康を保持・増進するための組織的な衛生活動が行われています。これには、感染症対策、健康教育、生活習慣病予防、食品衛生、労働衛生などが具体例として挙げられます。日本保健衛生教育学会は看護師・保健師・助産師理・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を主とした保健衛生教育および関連諸分野の学術研究、調査等を行い、保健衛生教育学を発展させ、保健衛生教育に関する情報・知識の発信・普及に務め、会員の生涯学習の奨励により会員の資質を向上し、社会に貢献することを目的としています。

本学会のultimate goalは保健衛生教育学の発展と専門職の資質向上を通じて、社会全体の人々の健康と福祉に貢献することです。今後急速に変容する社会の中で、『人の生命と健康を守る』『人のために存在する学問』はAIではなく、人です。まさしく日本保健衛生教育学会の使命です。

accepted academic practice. No use, distribution or reproduction is permitted which does not comply with these terms.

---

Copyright: © 2026 Yoshikiyo KANADA. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License (CC BY). The use, distribution or reproduction in other forums is permitted, provided the original author(s) and the copyright owner(s) are credited and that the original publication in this journal is cited, in accordance with